

本日、ここに「令和 5 年度デマンドサイドマネジメント表彰 式」が行われるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターをはじめ、本日御臨席の皆様方におかれましては、日頃より省エネルギー政策にご配慮・ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。また、本日、表彰を受けられる皆様方におかれましては、日頃から電力負荷平準化や省エネルギーに資するシステムの開発・普及に大きな貢献をされており、心から敬意を表しますとともに、お祝い申し上げます。

さて、我が国では 2050 年のカーボンニュートラル に向け、2023 年 2 月に策定された GX 基本計画において徹底した省エネルギーを推進することとしており、エネルギー使用量の削減を通じた脱炭素社会への貢献のみならず、危機にも強いエネルギー需給体制の構築にも資するため、家庭・業務・産業・運輸の各分野において、改正省エネ法等を活用し、規制・支援一体型で大胆な省エネを進めてまいります。

資源エネルギー庁では、省エネルギーを進めるために、事業者向けに省エネ設備投資補助金の抜本強化や工場・ビル等の省エネ診断の拡充を行いました。さらに、家庭向けには、高効率給湯器の導入や断熱窓への改修など、住宅の省エネ化支援により一層の省エネを進めてまいります。

2050 年のカーボンニュートラルを目指すには、従来からの「省エネ」の取り組みに加えて、再エネや水素等の非化石エネルギーへの転換や電気の需給状況の変動に応じた需要最適化に取り組むことが重要です。こうした取り組みを促すため、今年4月に改正省エネ法の施行がされたところです。大規模需要家に対してデマンド・リスパンスの取組について定期報告することを義務化するなど、電気の需要の最適化の措置も行ってまいります。

こうした中で、高い省エネルギー性を有し、エネルギーの効率的な利用に貢献しうるヒートポンプ・蓄熱システムといった技術の役割は、ますます重要になっております。この度の表彰を通じて、これらの機器・システムの一層の普及及び社会への啓発を図っていくことは、限られた

エネルギーを効率的に利用していくために大変有意義なものです。今回受賞された皆様方が、
更なる普及に向けた取組を牽引していくことを願ってやみません。

最後に、今回受賞された皆様方、そして一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターの益々のご
活躍とご発展を祈念するとともに、更に意欲的な取組が出てくることを期待いたしまして、私
のご挨拶とさせていただきます。

令和5年6月1日

経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー課長 稲邑 拓馬